



出張報告書

令和 5年 8月29日

尼崎市議会議長 様

会 派 名 市民グリーンクラブ

代表者氏名 綿瀬 和人

出張者氏名 須田 和

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1 出張期間 令和5年8月18日から令和5年8月19日まで

2 結果の概要

用務先 東京都渋谷区	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 1 コロナ禍と物価高騰での困窮のリアルと生活保障 2 すすめよう！子育て支援 必要なの？少子化対策
添付書類 <input checked="" type="checkbox"/> 出張報告書 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	備 考

3 届出事項の変更等 なし あり (内容は裏面に記載)

旅 費 の 清 算

<input checked="" type="checkbox"/> 精算額は、令和5年7月19日届け出た額 (45,180円) と同一額である。 <input type="checkbox"/> 届出事項の変更等により、別途清算する。(精算額は裏面に記載)

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

支 出 額	
精 算 額	
支出 差引 額 戻入	

変更前と後の日程

	月	日	日	日	日	日	日
発着地	前						
	後						
経 路	前						
	後						
用務先	前						
	後						
宿泊先	前						
	後						

出張調査報告書

尼崎市議会 市民グリーンクラブ

須田 和

日時 2023年8月18日（金）、19日（土）
場所 国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

プログラム

メインテーマ 自治で創る命の安全保障

8月18日 13時～

① 基調講演「自治体からの平和の提言」廣瀬克哉さん（法政大学総長）

14時～

② シンポジウム

「市民の命に責任を持つ一番身近な政府から」

保坂展人さん（世田谷区長）

岸本聡子さん（杉並区長）

平尾道雄さん（米原市長）

16時30分～

③ 分科会

「コロナ禍と物価高騰での困窮のリアルと生活保障」

雨宮処凛さん（作家、反貧困ネットワーク世話人）

8月19日 9時30分～

④ 分科会

「すすめよう！子育て支援 必要なの？少子化対策」

青木八重子さん（NPO 法人パートナーシップながれやま代表）

内容

市民自治、持続可能な社会をめざして活動している無所属議員によるネットワーク「自治体議員政策情報センター・虹とみどり」が主催する勉強会で、対面での開催は数年ぶりとのこと。全国から会場とオンラインとで、北海道から鹿児島県まで各地からの議員が集まった。

廣瀬克哉教授による基調講演概要：現在の自治体は、感染症などのリスクに対して、ワーキングプアの状況にある非正規公務員によってなんとか賄っているのが事実であり、それは真つ当な解決策で

はない。国はしくみをつくりお金を回すことができるが、市民の生命に対する責任を負うのは自治体。経費を減らすことが、人を減らし、民営化に転換するという事実上の撤退に向かってしまっていることへの反省をすべき。「新住民」は居住地の選択は「消費者」として商品選択をしているわけで、公共サービスについても消費者感覚の人が多く、「お客さま」から「ご本人さま」へ、意識と役割を変えていく環境づくり、全員ではなくても市民の中のオピニオンリーダー層を「本人さま化」していく努力をすべきである。

3人の首長によるシンポジウム：

世田谷区長の保坂展人さん、元教育ジャーナリスト、国会議員から区長になり12年。新型コロナウイルス感染症の対策本部を立ち上げた2020年1月から、独自の対策をすすめてきた実績－保健所の体制、社会的検査、抗原定性検査キットの無料配布、臨時PCR検査会場の設置、前倒し接種を厚生労働省に働きかける…などを語られた。

ヨーロッパの環境NGOや研究所で20年活動し、帰国してわずか数カ月で杉並区長選挙当選した岸本聡子さんは、ミュニシパリズム（municipalism）－自治と自立、参加型民主主義、を実践する中で、市民がいかに市政に参画するかのしかけについて、考える機会を提供された。

米原市長の平尾道雄さんは、非核・平和都市として、福井県の原因については、万一の場合の、園児・児童・生徒への安定ヨウ素剤服用について、また、日本人として、戦争をしたという自覚をすることにもつながる「平和の礎」建立も計画された。

四つから二つをえらぶ分科会②：作家の雨宮処凛さんによる困窮者支援の実態。リーマンショック時の状況と、その一五年後のコロナ禍の大きな違いは、主たる困窮者が、年代の高い男性から、10代、20代、30代の女性が増えてきたこと、食糧支援や炊き出しに、子ども連れ、若いカップルも支援を求めてきていたこと、支援制度が進んできたのに、5類移行で、また前に戻ってしまい、セーフティネットが不足していると訴えられた。

分科会④：「NPO法人パートナーシップながれやま」理事長青木八重子さんは、「母になるなら流山」と謳う市の子育て支援策に、市民として参画してこられた経緯や課題を説明された。このNPOの初代理事長、創設者は、旧知の大先輩であり、うまく世代交代を果たされている様子もわかり、非常に参考になった。中央学院大学教授（元安孫子市長／元消費者庁長官）の福嶋浩彦さんとのクロストークでは、子育てと子育て支援の関係性について語られたが、全体のまとめについては、会場内の音声の不調で、

後日、動画配信をされるとのことである。

地方自治体の規模は様々であり、その首長が目指す方向をどのようにして市民が理解し、自発的に参画、或いは時には反対するか、首長という仕事を軸に、地方自治について学ぶことができたと思う。しかしながら、それぞれの首長が日ごろからどのように、市民・区民に発信し、声を聴いたらよいのか、の点に関しては、私自身は理解できていないと思っている。

以上

【08】 国立オリンピック記念青少年総合センター

〒100-8332 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL: 03-3581-1111

URL: www.noc.ac.jp

〒100-8332 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL: 03-3581-1111

URL: www.noc.ac.jp



第15回 全国政策研究集会 2023 東京

8/18(日) 8/19(月)

自治で創る命の安全保障

自治体からの取り組み、
市民生活への影響

自治体の命に責任を持つ 各自治体の取り組み

- 1 自治体独自の取り組み、市民生活への影響
- 2 自治体独自の取り組み、市民生活への影響
- 3 自治体独自の取り組み、市民生活への影響
- 4 自治体独自の取り組み、市民生活への影響

全国政策研究集会 2023 東京

自治で創る命の安全保障

8/18(日) 12:30~

【08】 自治体からの取り組み
12:30~14:30

【09】 市民の命に責任を持つ 各自治体の取り組み
14:30~16:30

1 自治体独自の取り組み、市民生活への影響
16:30~18:30

2 自治体独自の取り組み、市民生活への影響
18:30~20:30

8/19(月) 9:15~

【03】 自治体独自の取り組み、市民生活への影響
9:15~11:30

【04】 自治体独自の取り組み、市民生活への影響
11:30~13:30

【05】 自治体独自の取り組み、市民生活への影響
13:30~15:30

神宮外苑再開発フィールドワーク 8/19(月)

神宮外苑再開発、市民生活への影響、自治体独自の取り組み